



発行日：平成30年6月30日 発行者：居宅介護支援事業所スマイルゆい 管理者 古村久美子

30年4月、介護保険の改正が行われました。居宅介護支援についても今回は変更点が多くありました。変更内容に対応すべく、情報収集、説明会・研修会に参加しております。主な改正点は次のようなことです。



- 1 医療と介護の連携の強化（入院時情報連携加算の見直し）
- 2 医療と介護の連携の強化（退院・退所加算の見直し）
- 3 医療と介護の連携の強化（特定事業所加算の見直し）
- 4 末期の悪性腫瘍の利用者に対するケアマネジメント
- 5 質の高いケアマネジメントの推進
- 6 公正中立なケアマネジメントの確保（契約時の説明）
- 7 公正中立なケアマネジメントの確保（特定事業所集中減算の見直し）
- 8 訪問（介護）回数の多い利用者への対応

国の財政のあり方を大局的に考えた上で、介護の費用負担・給付を理解しないといけないと思います。6月15日に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2018」をざっくり見ても、人口減少・少子高齢化が進む中、高齢者の分野だけでなく、子ども、若者、勤労者、障がい者、子育て世代、元気な高齢者と様々な年代、立場の人に生きがいを与える施策（お金を付ける）が必要だと感じました。社会保障費の増大や国民負担の増大は国民の生活における活力を減退させ、人口減少の中、社会の活力も低下するのが見えるようです。

負担能力に応じた公平な負担、給付の適正化、自助と共助の役割分担の再構築と題された項目では次のような内容があります。（「経済財政運営と改革の基本方針2018」）

- 1 所得のみならず資産の保有状況を適切に評価しつつ「能力」に応じた負担を求めることを検討する。
- 2 団塊の世代が後期高齢者入りするまでに（医療）窓口負担のあり方について検討する。
- 3 介護のケアプラン作成、多床室料、介護の軽度者への生活援助サービスについて給付のあり方を検討する。

とあるように、現在利用者の負担がないケアプラン作成費についても負担を求められる可能性があります。以前から議論になっていて今回も見送られましたが、次は・・・わかりません。

ケアプラン作成費の利用者負担を求めると500億近くの給付費節減になるようですが、現に在宅介護をされている方を支援していて、経済的負担は大きいものがあります。年金が増えない中、気が重くなることは必至です。

業務上も、事業所・利用者双方にかなりの混乱を招くと思われます。

やはり国民一人ひとりも自覚し介護予防に努め、健康で生きがいのある暮らしを求めていかななくてはならないと思います。その受け皿となる居場所の創設や生活を共に支えあう地域づくりが急務です。

## 新入職員紹介

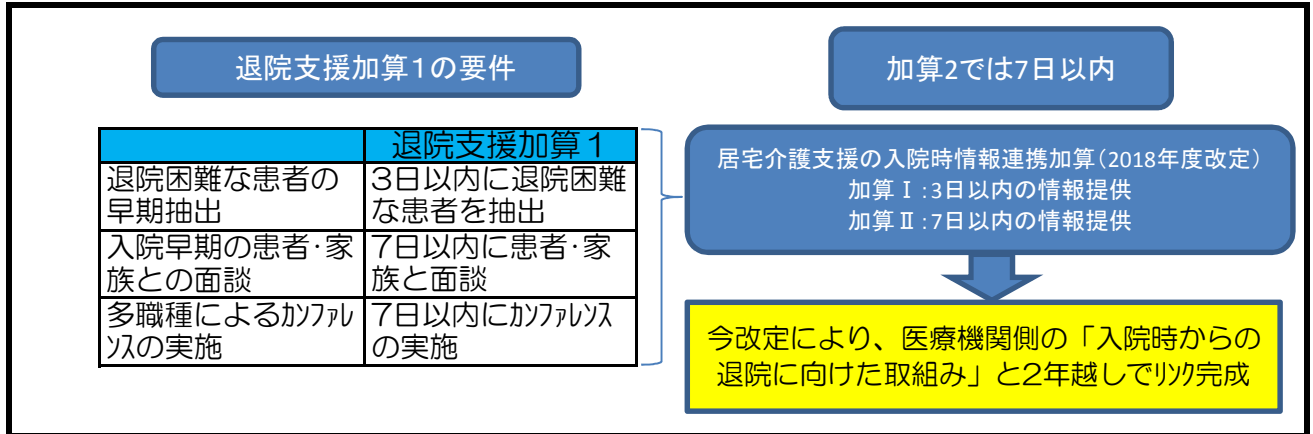


- ①名前:佐藤美絵（サトウミエ）
- ②基礎資格：介護福祉士
- ③ケアマネ経験年数：約1年
- ④趣味：ヨガ
- ⑤モットー：利用者様の気持ちに寄り添える存在でありたいです

# 医療との連携強化

一面にもありますように医療と介護の連携の強化が最重点的な取り組みになるかと思えます。私たちも病院との連絡調整に関わる時間が増えました。医療、介護双方の改定で、算定される加算はお互いの情報取得にリンクする形になったようです。医療側の改正で「退院支援加算」が「入退院支援加算」と呼び名が変更されました。病院側の情報入手が入院前にも求められる可能性があります。急に入院が決まったとしたら、3日以内の情報提供がケアマネに求められることになり、迅速な情報提供をしなくてはなりません。また退院時においては、医療側のカンファレンスに参加することで評価が上乘せされることになりました。「診療情報提供料1」を算定する医療機関では情報提供のタイミングについて「退院の前後2週間」と前倒しが図られました。入院時から退院まで切れ目のない支援で利用者さんに安心感をお持ち頂き、退院後も医療機関にフィードバックをしながら連携強化に努めます。

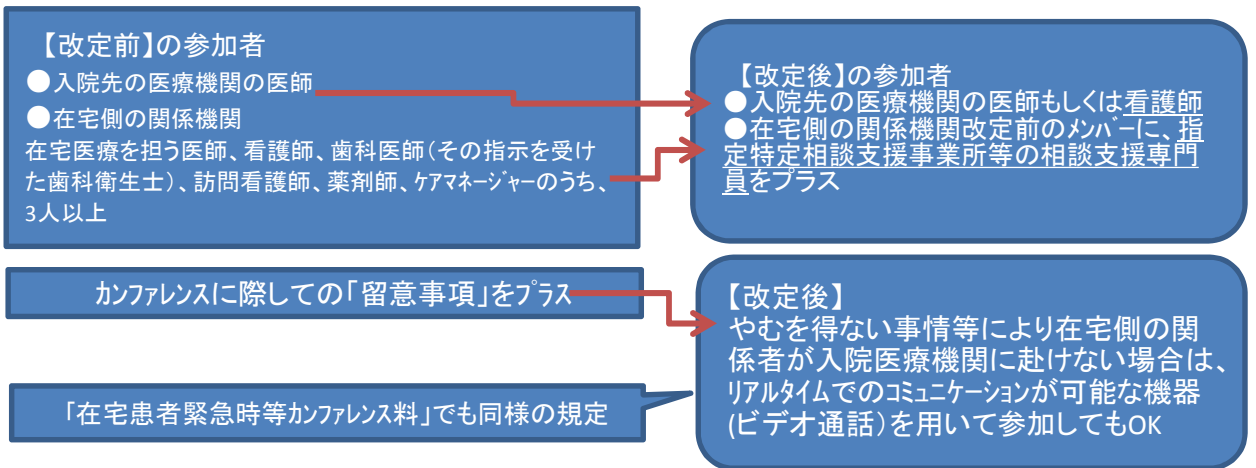
表 2016年度改定で設けられた「退院支援加算」の要件とケアマネ側との関係



## ケアマネジャー側の「退院・退所加算」と「退院時共同指導料2」

【改定後】の「退院・退所加算」の構造

カンファレンスの参加	なし	あり
連携1回	450単位	600単位
連携2回	600単位	750単位
連携3回	×	900単位



### 【介護に関するお問い合わせ】

居宅介護支援事業所 スマイルゆい

☑住所：〒870-1103 大分市敷戸西町1-3 ミスチャーハウスえん2F

☑TEL：097-504-7858

☑FAX：097-504-7848

☑E-MAIL：furumura@wonder.ocn.ne.jp

### 編集後記

サッカーファンではありませんが、遠くロシアでの日本代表の活躍に国内でも盛り上がっていますね。来年日本で向かえるラグビーワールドカップ。大分からの発信、がんばれ!!